

東日本大震災で被災した宮城県東松島市で、ノリ養殖再開を目指す漁業者を「竹」で支援しようと、山城地域で活動するNPO法人が動きだした。養殖施設用の竹と竹炭を使った水質改善剤を来月、現地に届ける予定で、「放置竹林に悩む地域と被災地が手を取り合い、資源の交流につなげたい」と話す。



ノリ養殖再開を支援するため、竹の準備に取り組む「京都発・竹・流域環境ネット」のメンバー（木津川市鹿背山）

東松島で京のNPO

手取り合い 未来紡ぐ

あす1年

ノリ養殖 竹で再生

施設の部材、水質改善剤に

支援するのは「京都発・竹・流域環境ネット」（京都府左京区）。震災後から

環境ネットの次回訪問（4月）で、伐採竹1500本を現地に運び、施設の再建を手伝う。竹炭加工品「キレートマリン」約50キロも持ち込み、水環境の改善を図る。

宮城県気仙沼市で、津波で被害を受けた養殖いかだの撤去や、植樹などに協力してきた。

新聞報道で東松島市宮戸・月浜地区の漁師をつくる「月光」山内良裕代表（57）のノリ養殖再開活動を知り、吉田博次事務局長（60）が現地を訪問。JICA（国際協力機構）地域復興推進員で月光をサポートする福原佳代子さん（34）も加わって、継続できる方法を模索、養殖施設の再建に竹を活用してもらおうことを思いついた。

山内代表によると、月浜地区は震災前まで3分の1

近しい世帯が養殖に従事していたが、津波でいかだや陸上の加工施設が被災。再起を目指す7世帯が月光を結成し、一口オーナー制度で全国から資金を募っている。竹は育苗施設の支柱や網を平らに保つ「ヤハズ」部分に使う。

環境ネットは継続支援に向けたサポート会員も募集中。問い合わせは事務局 ☎ 075(711)1316。（笹井勇佑）

大阪 9日、歌の起る「君に基つ、反した、卒業式」た府立を戒告、職員、12日、橋下、大阪、日、昨年、をめぐ、介カード、リスト、し、市交、情報があると、

不 17